

『主体的・対話的で深い学び』の授業実践を振り返って

福祉科 宮崎県立〇〇高等学校 教諭 〇〇 〇〇

今回、介護過程の「介護過程の展開の実際」という単元で授業を行った。介護過程は、これまで学習してきた他科目の知識や技術、介護実習での経験を活用し、系統的に学習を進めていかなければならない。そのため、対象クラスの生徒21名中、14名(67%)が苦手、7名(33%)がどちらでもないと感じており、生徒の苦手意識が非常に強い科目である。しかし、3年次の介護実習では、担当利用者のアセスメント、計画の立案、実施、評価までの流れを一人で実施しなければならない。このため、本単元では事例を活用することで、アセスメントから評価までの一連の流れを体験し、それぞれの場面で生徒が、自分で根拠を基に考え、評価まで行うことを目標とし、単元計画を作成した。

公開授業では、「課題の明確化」を主題とし、前時で発見した日常生活の様々な場面での生活課題から優先的に解決すべき課題を選択するため、ペアでの話し合い活動を行った。また、ペア活動の際には話し合いの時間をタイマーで視覚的に理解できるよう提示し、限られた時間の中で考えをまとめるように促した。ペアによって話し合い活動の差は見られたが、それぞれがこれまでの学習経験を生かして様々な視点から優先的に解決すべき課題を選択していた。優先すべき課題の根拠を考える際、多くのペアは福祉の授業で学んだ知識をもとに根拠を考えていたが、介護実習での実習指導者からのアドバイスや家庭科の授業で学んだ知識を根拠として考えていた生徒も見られた。そのため、関連する教科や日々の生活に目を向けさせ、幅広い視点で物事を考えるような働きかけが必要だと感じた。それぞれのペアの意見を共有する場面では、ペアでまとめた用紙をお互いに交換し、自分が発見できなかった良かった点を、付箋にまとめる方法で行った。自分の意見をまとめることが苦手な生徒にとっては、相手の意見をしっかり読んで自分の意見をまとめる時間が作れたのではないかと感じた。また、返却された自分達の用紙を確認していた際、良い気づきを認めもらったことで、生徒達が笑顔になっている様子が見られ、今後も自分の意見を他者に認めてもらう時間を作ることは必要だと感じた。

研究協議の中で、授業を参観していただいた先生方から「課題を選ぶ根拠を教師が示すのではなく生徒に考えさせてみてはどうか」、「意見を全体で共有する手段が必要ではないか」等と貴重な意見をいただいた。今回の授業では、課題を選ぶ根拠を提示した上で話し合い活動を行った。事例を用いた初めての演習であったため、生徒達が考えた根拠からまとめる方法もあったのではないかと感じた。また、意見をクラス全体で共有することは大切であり、貴重な意見をいただいたと感じている。対象クラスの生徒は、話し合い活動後に代表者が発表する形式を用いると、発表者となった生徒が自分達の意見をまとめることに集中してしまい、他者の意見を集中して聞いていない点や現状から向かい合っただけの発表の形式を控えるという点から用紙を交換する方法を用いた。しかし、限られた時間ではすべての意見を共有することができなかったため、すべての意見を共有する方法については、前時の振り返りの際に再度、共有したうえで進める等の検討が必要だと感じた。授業での生徒の様子や、研究協議で先生方からいただいた意見を参考に、今後も生徒にとって深い学びとなるよう授業改善に努めていきたい。